

国際婦人年連絡会世話人
前田 佳子
城倉 純子
渡部由紀子

すべての子どもたちにゆきとどいた教育を保障するために必要な教育条件整備
および教職員の長時間過密労働を解消するための予算措置を求める要望書

国際婦人年連絡会は、女性の地位向上・ジェンダー平等の実現をめざす NGO などの全国組織 33 団体が結集している団体です。

私たちは日頃、子ども達や教職員が何の不安もなく、のびのびと学び、教えられる環境にあることを望んでいます。ところが、教職員未配置数の増加による教育活動の困難や、不登校児童生徒数の増加、いじめや暴力行為などの重大事態件数が増えているなどの状況が報じられ、大変に憂慮しています。

教職員の大幅な欠員の理由の一つとして、メンタル疾患などによる休職者の増加があります。その原因となる教職員の長時間過密労働の実態は、教職員になる希望を持って学ぶ者たちにも、二の足を踏ませています。

これら憂慮ある状況を一刻も早く解決しなければ、子どもたちは教育を受ける権利を阻害され、子どもたちの未来は開けません。

中教審答申では教職調整額の一律増額を提示していますが、これは教職員の長時間過密労働を解消するものではありません。増額したのだからと一層の長時間勤務を奨励するものになりかねず、学校現場の教職員の实態を全く見ていないものと言わざるをえません。

必要なことは、学校現場の实態を踏まえ、子ども達が十分に学べる環境を保障するための予算措置です。従って、以下の事項を 2025 年度予算編成で行うことを強く求めます。

記

- 1 教職員の基礎定数の改善をはかること
- 1 一学級あたりの児童・生徒数の改善をはかること
- 1 教職調整額を本給と位置づけ、時間外勤務については手当を支給すること
- 1 長時間労働に歯止めをかけるシステムを設定する予算措置を講ずること